

今日の精神疾患治療指針

樋口輝彦，市川宏伸，神庭重信，朝田 隆，中込和幸 ● 編

精神・神経科学新興財団理事長 高橋清久

『今日の治療指針』という書名は多くの医師にとってなじみの深いものであろう。私も日常診療の中でそれをひもといいた経験は数知れない。しかし、精神科医師の私がそのページを繰るのは、ほとんどが他科の疾患項目であって、精神科関係のものはごく稀であった。その稀にしか見なかった精神科疾患に関する治療指針の解説は正直言って物足りないものであった。

このたび新たに出版された本書を手にして、これこそ精神科の日常診療に役立つものだと思感した。初めて精神科医師にとって日常診療で実際に役立つ治療指針が世に出たわけだが、考えてみるとなぜこのような書物が今まで出版されなかったのか不思議に思えてくる。裏返していうと、まさに精神科医師が待望していた実践書といえよう。

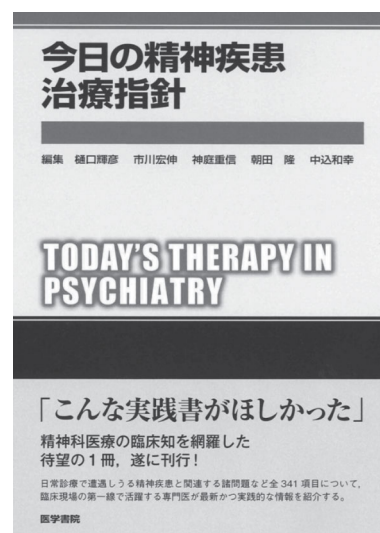
本書が出版されるに至った背景を考えてみると、今日ほど精神科医療が重要であることの認識が高まった時代はない、という事実があると思われる。うつ病，PTSD，不安障害，睡眠障害，不登校，虐待，自殺など数多くのこころの健康問題に社会的関心が高まっており，さらに東日本大震災で生じたこころの健康問題はそれを大きくクローズアップした。それもあって国は精神疾患を五大疾患の1つとしたのである。

本書は1,000ページ余りの大著であり，取り上げられたテーマは23

の項目にわたっており，300人以上もの第一線で活躍する人々によって最新の情報が書かれている。統合失調症や気分障害をはじめ，ICD-10，DSM-IV-TRなど国際診断基準で取り上げられているすべての疾患について，そのスタンダードとなる治療指針が述べられている。

精神疾患に関する治療は単に薬物療法だけでは効果がなく，精神療法や環境調整，さらに社会的な支援までも視野に入れなければならない。そのような包括的医療が的確かつ網羅的に記述されているのが本書の特色の1つである。また，ある特定の疾患について薬物療法，精神療法，家族との関係を含めた環境調整などの記述があると同時に，それらの治療法を中心とした記述がまた別の項で適切に記述されている。いわば，治療指針を立体的に俯瞰しているといってよいだろう。一例を挙げれば，精神療法については実に17種類もの治療法についてわかりやすい解説が加えられている。

もう1つの本書の特徴は，身体疾患にはみられない精神疾患特有の重要事項あるいは社会的観点をも取り入れている点である。まず，精神疾患の身体合併症について実際の臨床で有用と思われる解説が行われている。また，社会的支援の資源についても有用な情報が盛られており，さらにはアンチスティグマ，ジェンダー，外国人のメンタルヘルス，医



療関係者の精神保健といった項目までである。

このように多岐にわたる精神疾患の治療指針を，実際の臨床現場での必要な知識とともにその背景にある多彩な課題を，かくも網羅的に，しかも要点を簡潔に解説するという本書を生み出された編者および執筆者の努力に敬意を表したい。と同時に，新しい薬剤の登場が盛んであり，疾病概念も時代とともに移り変わり，環境調整や社会的支援のあり方の変化も急である精神医療の現状を思うと，本書の内容は遠からず追補・修正する時が到来すると予想されるが，本書にみられる豊かな最新情報を網羅的に提供し，実践上高い有用性を持つ，という編集方針を今後とも堅持していただきたいと願う次第である。

A5 頁1,012 2012年
定価14,700円
(本体14,000円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01380-2]

医学書院刊